

I ラテンアメリカ諸国の経済政策の推移

1. 第二次世界大戦後～1970年代

(1) ECLAC (ラテンアメリカ経済委員会) エコノミストの提言

Ex. Raul Prebisch

プレビッシュ＝シンガー命題

発展途上国 : 第一次産品輸出

先進国 : 工業製品輸出

⇒「先進国に対する発展途上国の交易条件は構造的悪化をたどる。」

(2) ラ米諸国の新たな戦略

① 「輸入代替工業化政策」

＝政府主導型工業化 (政府投資、優遇金利、原材料の優先割当、輸入抑制のための保護貿易政策
(関税率、輸入割当による数量規制))

② 「地域経済統合による市場拡大」：各国の市場は輸入代替工業化のためには小さ過ぎるため、
一定の市場規模を確保する必要がある。

域内：関税撤廃による自由貿易地域形成

域外：保護政策

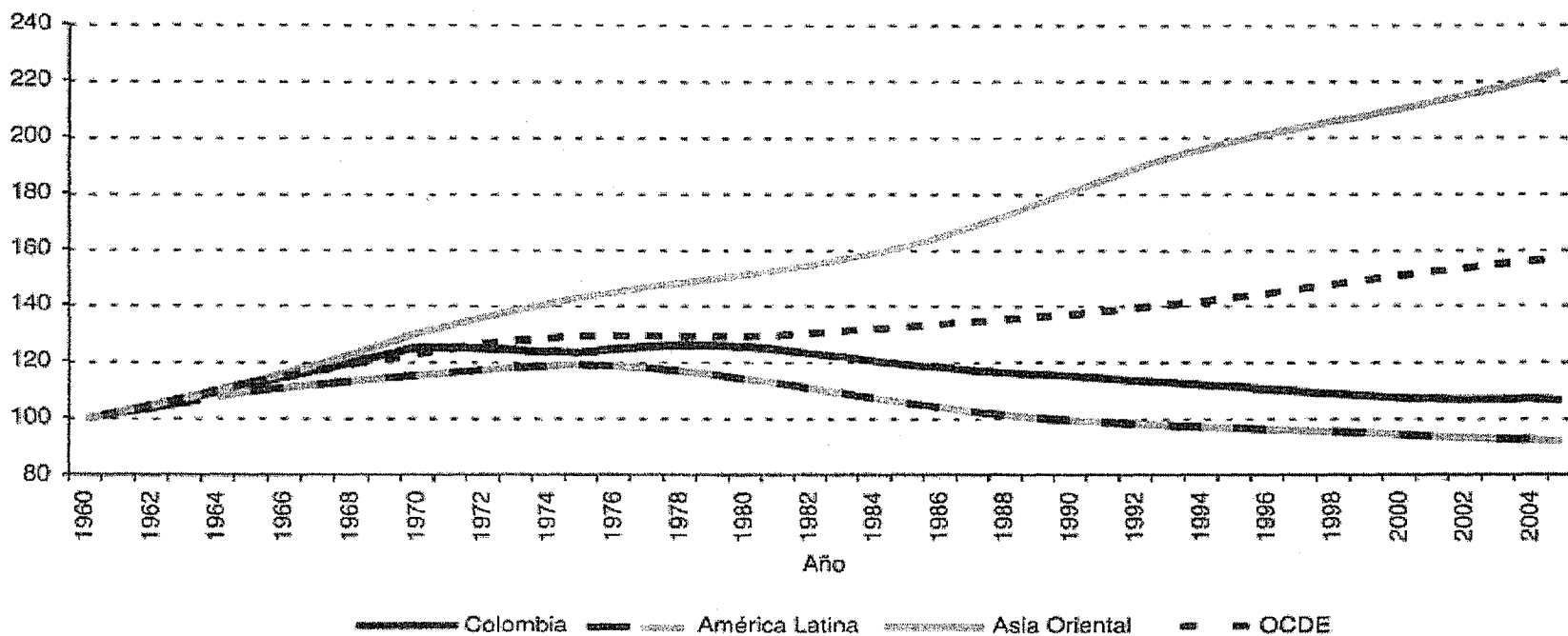
- ・ラテンアメリカ自由貿易地域 (L A F T A) 構想 (1960年)
- ・アンデス共同体 (C A N。1969年、カルタヘナ協定)、当初ボリビア、コロンビア、エクアドル、ペルー、チリ →1973年 ベネズエラ加入 (2006年脱退)、1976年 チリ脱退

(3) 輸入代替工業化政策及び政府の保護主義の行き詰まり

① 生産性の低下 1970年代から低下傾向

全要素生産性の推移 1960-2005

Productividad factorial total 1960-2005 (1960=100)



Fuente: Daude y Fernández-Arias (2009)

② 累積債務危機による終焉 (1980年代)

2. 新自由主義の導入

(1) 政府の介入から市場メカニズムへ

① 市場メカニズムを利用した効率的資源配分による生産性の向上と競争力の確保

c. f. アジア各国の輸出主導型経済

② 具体的措置

財政規律、金融自由化、為替の自由化、貿易自由化、直接投資の受入、民営化、規制緩和、税制改革 etc.

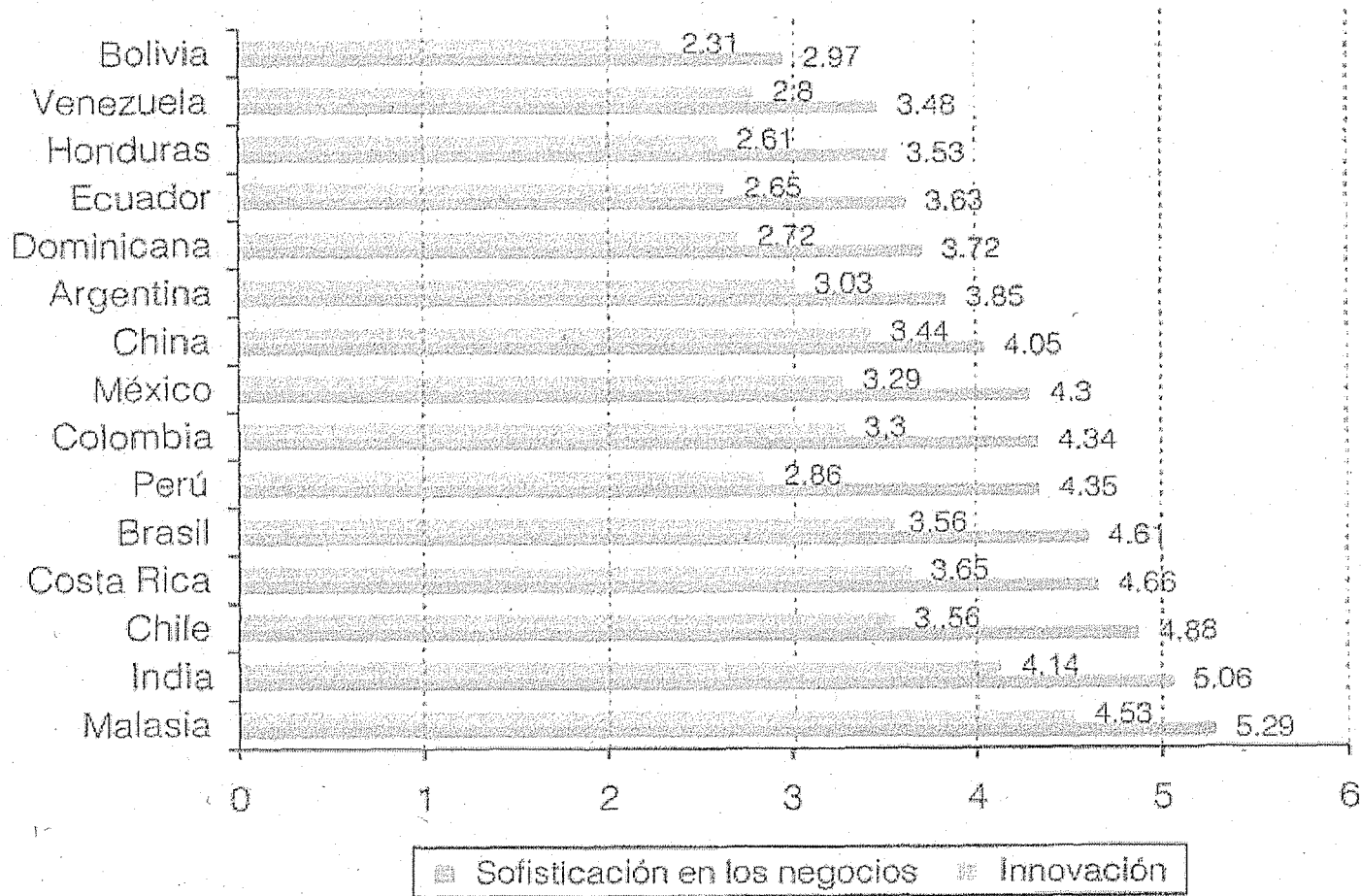
③ 多くの国は、債務危機に関連して、IMF、世銀から新自由主義を押しつけられた

(例外、コロンビア)

(2) 新自由主義政策の結果

・光と影の出現 経済成長の促進 vs. 格差の拡大

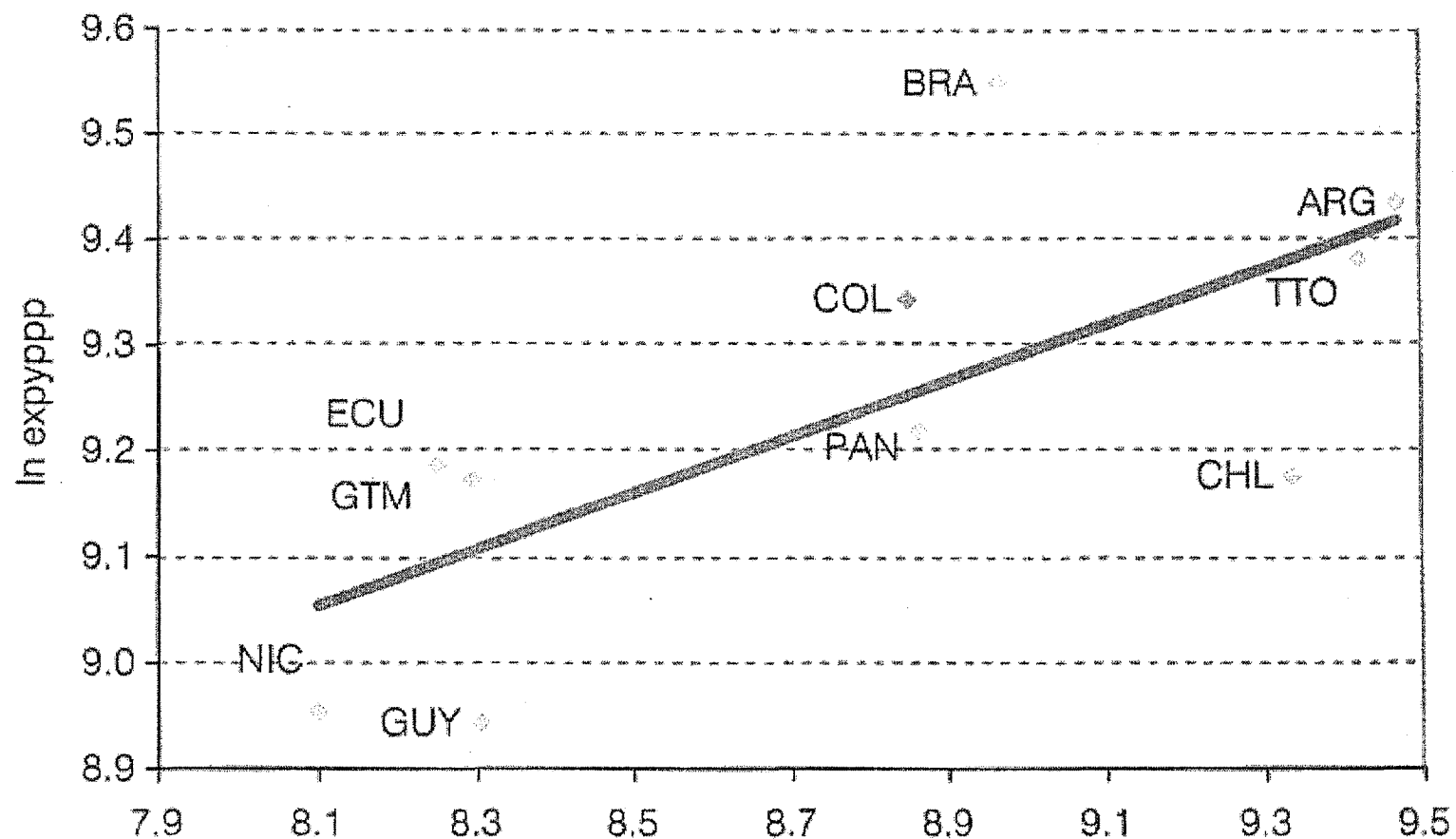
企業の高度化とイノベーション Sofisticación empresarial e innovación



Fuente: Informe de Competitividad Mundial, 2006-07.

一人当たりGDP 対 輸出の高度化

PIB per cápita versus EXPY, 2005

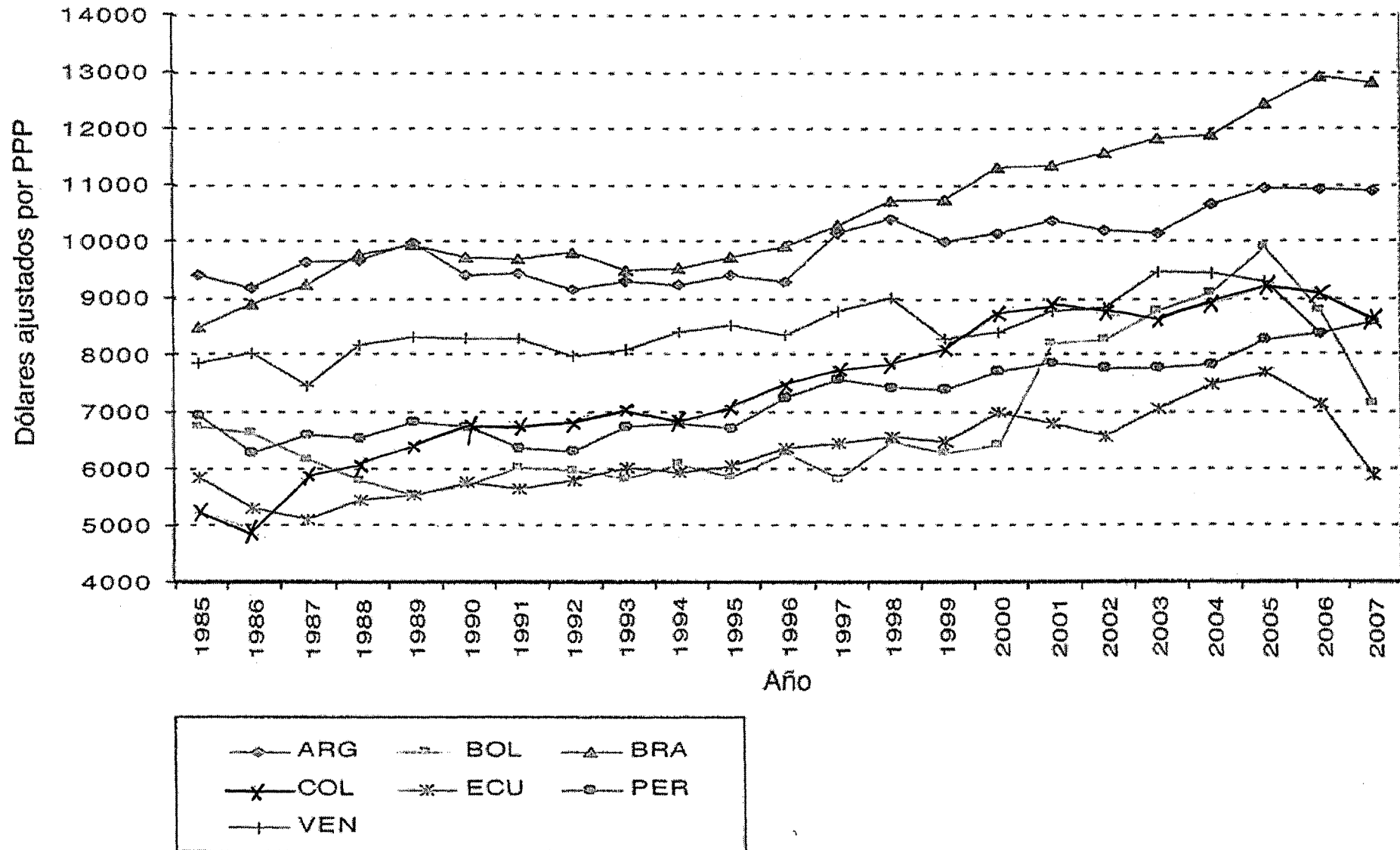


Nota: 2000 PPP dólares.

Fuente: Datos suministrados por Ricardo Hausmann y cálculos de los autores.

輸出の高度化の推移

Evolución de la sofisticación de las Exportaciones 1985 - 2007



Fuente: Hausmann y Klinger (2006).